

学校目標・経営方針	
本年度の重点目標	I 学びの本質に迫り、自ら考え、判断し、表現できる生徒の育成
	II 誇りと気概を持ち、自他を敬愛する豊かな心を持つ生徒の育成
	III 生命や人権を尊重し、心身ともにたくましい生徒の育成
	IV 地域や保護者に信頼される学校づくり
達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価					
番号	評価項目	本年度の重点目標	年度末評価(2月15日現在)		
			具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果
1	自ら考え、判断し、表現できる生徒の育成を目指す、個別最適な学びと協働的な学びの充実	①ICTの活用等による個に応じた指導の充実	学校評価アンケート、授業アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに電子黒板を導入し、ICT機器を活用した個に応じた指導を充実することができた。 ・定期試験後に観点別評価の結果を学年、教科で検証し、より生徒の実態に合った評価となるよう努めた。 ・今年度はコロナ感染予防対策を取りながら、校外も含め様々な探究的な活動を実施することができた。また、TSIにおいては生徒同士の協働により、学びを深めることができた。
		②学習意欲を高め、予習、授業、復習を軸とした学習習慣の確立につながる学習評価の実践	学校評価アンケート、授業アンケート、定期試験		
		③生徒同士や多様な他者との協働による、より良い学びの生成のための探究的な学習活動の充実	TS事後アンケート、ポートフォリオ作成状況		
2	誇りと気概を持ち、多様化する価値観を受け入れながら自他を敬愛する豊かな心を持つ生徒の育成	①朝読書や学校図書館の積極的な活用による読書活動の充実	朝の読書アンケート、図書館利用・貸出状況の調査	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書や読書に関する啓発活動にも取り組んだが、昨年度以上に読書活動の充実に関わりづけることができなかった。 ・多様な体験活動に取り組むことができた。 ・授業や特別活動で主権者教育を行うことはできたが、組織的な取り組みを推進することができなかった。
		②自己有用感・自己効力感を育む多様な体験活動の推進	ボランティア活動状況及びTS事後アンケート		
		③主権者として意欲的に社会参画する力を醸成するためのクロスカリキュラムの推進	学校評価アンケート、授業アンケート		
3	新しい生活様式を踏まえたなかで、生命や人権を尊重し、心身共にたくましい生徒の育成	①感染症対策を前提とした健康で活力ある生活を送る土台となる基本的な生活習慣の確立	学校評価アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比べると、やや評価は低くなってしまったが、学校全体で感染症対策に取り組むことができた。 ・コロナ禍ではあったが、工夫しながら生徒会活動や部活動の中で他者と協働する機会を持つことができた。 ・避難訓練や日常的な安全・防災教育、また、被災地支援ボランティアの機会を通して安全防災教育を推進し、成果を地元自治体にも還元することができた。
		②他者と協働してより良いものを創り上げる生徒会活動・部活動の推進	学校評価アンケート、生徒会誌による活動状況の検証		
		③命を守る「自助・共助」の行動につなげる安全・防災教育の推進	学校評価アンケート、行事の検証		
4	地域や保護者に信頼される学校づくりの推進	①ホームページ等を利用した定期的な情報発信や学校訪問等による広報活動の充実	学校評価アンケート、広報物の検証、オープンスクールへの参加状況	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日更新する学校ホームページや、年に2度発行する広報誌等により、学校外部への情報発信に努めた。 ・地域のボランティア活動や祭り等の行事に参加し、世代を超えて交流を深め、信頼関係を築くことができた。 ・部活動において地域住民を外部指導者として活用することにより、校務の効率化を進めると共に、信頼関係を深めることができた。
		②地域の行事やボランティア活動への積極的な参加	ボランティア活動状況、学校評価アンケート		
		③教員の働き方改革の取組として、外部人材の活用による校務の精選・効率化	外部人材活用実績、学校評価アンケート		

学校関係者評価	
実施日 (令和5年2月16日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、今年度の重点目標を具体的に進めることを念頭に教育活動に取り組むことが重要である。 ・模擬試験や学びの基礎診断を有効活用していきけるように、組織的な対応を進めてほしい。 ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるとともに、学習への意欲意欲を高める工夫・わかりやすい授業実践は永遠の課題とも言えるが、確実に前進していただきたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書については、生徒のアンケートをはじめ、教員による自己評価も低い結果となっているが、何らかの手立てを講じてもらいたい。 ・生徒有志による被災地支援ボランティア活動がメディア等にも取り上げられ、大変誇らしく、嬉しく思う。こういった活動が単発で終わってしまうことがないようお願いしたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒のニーズに応えるためにも、共通の目標や意見を持った生徒と地域を含めた外部の方々とのあらゆる枠を取り払った交流を積極的に進めることが必要である。 ・被災地支援のボランティア活動の経験から、防災への意識を高めることを目的とした地域の住民を対象とする講演会で生徒が講演したことは、とても有意義であるとともに、大変ありがたく感じている。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会や学校パンフレットの充実に努め、学校内の生徒指導や進路指導等を含めた情報発信を、今以上に積極的に、特に中学校の生徒やその保護者に対して行ってほしい。 ・朝夕に生徒が清楚で仲良く登下校する姿は未来に夢を感じさせてくれるものであり、その中で挨拶や交通マナー等、何気ない日常の行動が地域住民の信頼に結びついていくものである。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。